

## 平成 29 年度稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

【日 時】平成 29 年 8 月 7 日（月） 午前 10 時 00 分～11 時 20 分

【場 所】稲沢市役所 政策審議室

【出席者】稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議委員（敬称略）

秀島栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
小森昌哉	共栄食品株式会社代表取締役
森岡庸晃	稲沢金融懇話会幹事
鈴木 忠	連合愛知尾張南地域協議会稲沢地区連絡会議長
田中里奈	公募
礫石秀幸	公募

〈事務局〉

篠田智徳	市長公室長
足立直樹	企画政策課長
吉川修司	企画政策課主幹
小澤純司	企画政策課主任

### 【議事次第】

1 市長公室長あいさつ

2 議事

(1) 「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況について

(2) その他

## 【会議の概要】

### 1 市長公室長あいさつ

おはようございます。本日、台風5号が近づいてくるというお足元の悪い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議につきまして、委員の皆様におかれましては、引き続き委員をお引き受け下さり、ありがとうございます。本年度も、本市のまち・ひと・しごと創生の推進にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、5つの重点戦略を柱として、各分野の事業展開を図っておりますが、来年度から始まる「第6次稲沢市総合計画」においても、「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の方向性が全面的に継承されております。「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現に向け、全市をあげて取り組んでいくことが本市の持続的な発展のために不可欠だと考えております。

しかし、人口減少や少子高齢化が進展する中、地方交付税や税収の縮減等、財政的に年々厳しくなる中で、これらを全て実行していくことは容易なことではないと思っております。

「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を展開していくためには、一人一人が知恵を絞り創意工夫を凝らして力強く推進していくとともに、振れることなく粘り強く継続して取り組んでいくことが重要であると考えております。

本日は、主には昨年度の実績についてご議論いただく機会ではございますが、今後の「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進にあたって、見直すべきことは見直す必要があると考えておりますので、それらのご助言やご提言についてもお願い申し上げ、実効性を高めてまいりたいと思っております。

限られた時間ではございますが、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### 2 議事

#### (1)「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況について

[会長]

最初に、協議事項の1「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況について、事務局から説明願います。

=事務局=

【「総合戦略（アクションプラン）進行管理シート」について説明】

## ○質疑

[会長]

一つひとつの施策について、言わば行政評価のような形で、2年間の変化を見たということでもあります。一つひとつについてのご意見や、全体を通してのご意見、やり方そのものについて、また、2年経ったので進捗状況が指標でうまく表せているか、などといったことも含めてご意見をいただければと思います。

[委員]

当初、「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は最上位の計画で、その下に「第6次稲沢市総合計画」を作っていくということで、この「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が最上位の計画であると理解しておりました。

先日、稲沢市総合計画審議会が終わり、答申が出されておりますが、この稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議での考え方と、稲沢市総合計画審議会の意見の相違といいますか、稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議ではあまり触れられていなかったことについて、稲沢市総合計画審議会の方で重点が置かれたものはあるか、ということをお聞きしたいと思います。

それと、稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議と稲沢市総合計画審議会で差異があった場合について、稲沢市総合計画審議会は答申を出したらもうおしまいということ聞いていますが、稲沢市総合計画審議会の分のフォローはこの稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議で吸い上げるのか、市としてのお考えをお聞きしたいと思います。

2点目は、KPIの数値は出ているのですが、これに対する市としての判断、ないしは意見というものが全く付されておられません。これは果たして想定範囲内なのか、特殊事情を除けば想定どおりなのか、というところについて、次回以降、市としての判断はいただきたいと思います。

3点目は、概ね事業は進捗しているように見受けられるのですが、「基本目標（3）市内の雇用を拡大します」の進捗が総じて停滞しているように見受けられますので、5か年のうちの中盤から後半に入っていく中で、遅れているところについて重点的に進めていただきたいと思います。

[事務局]

1点目ですが、「第6次稲沢市総合計画」を平成27、28、29年度と3年間で策定しておりますが、大前提としまして、こちらが最上位計画という扱いになります。本格的に稲沢市総合計画審議会を開催して総論及び各論を揉んだのは平成28年度なのですが、その前の平成27年度に「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を作っています。こちらの方は、いわゆる人口対策、雇用対策に特化した計画ではありますが、「第6次稲沢市総合計画」の

肝の部分と重なりますので、「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、当初から、全面的に踏襲するという方向性で、「第6次稲沢市総合計画」の策定を進めてまいりました。

「第6次稲沢市総合計画」の策定時において、稲沢市総合計画審議会の委員の方々から「総花的ではないか」という意見がありました。全政策分野を扱う最上位計画ですので、どうしてもそうならざるを得ないところはあるのですが、総花的な計画よりも10年間で特に市が何に取り組むのかを示す計画にしたら良いのではないかと、という議論がありました。「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のときにも同じような議論があり、五つの重点戦略を設けた経緯がございましたが、「第6次稲沢市総合計画」においても、「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点戦略をアップデートするような形で、重点戦略を設けてございます。稲沢市総合計画審議会については、策定を目的としており、今回の会議のようなアフターフォローの場は想定しておりません。ですが、国は、総合戦略については作って終わりではなく、毎年毎年事業を展開して、見直すところは見直すように言っています。「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進しながら、「第6次稲沢市総合計画」も推進していく訳なので、その中でいろいろと当初の計画から変わっていくところもあると思います。効果的でない施策などは見直さなければいけませんし、そうしたフォローにつきましては、この会議で今後やらせていただくことになると考えています。

2点目のKPIや数値目標に対して、ただ数字が並べてあるだけで、市としての判断、評価が入っていないという意見につきましては、確かにそのとおりであり、次年度以降の進捗管理の参考にさせていただきます。どのような事情で停滞しているのか、またはこれについては順調に行っている、といったことが分かるように口頭で説明するなり、記載するなりでフォローする必要があると考えています。

3点目の雇用や仕事づくりの進捗が停滞しているという意見については、確かにおっしゃるとおりです。昨年度に平成27年度の実績を報告しましたが、平成27年度はほとんど「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に費やしたことを考えますと、ある意味、今年度、平成28年度の実績を報告することが、第1回目の進捗報告に近いのではないかと考えています。ただ、それにしてもこの1年間何をやっていたのかと言われても仕方のない状況だと思っております。ただ、「目指すべき方向性」欄で、将来取り組むべき事業を挙げておりますが、その中にも濃淡がありまして、例えば資料5ページの「学習支援事業」は任意事業とはなっているものの法律で定められているものであり、4ページにある「第3子の保育料・授業料無料化」は当時の大野市長が公約に掲げていたことなので、ある意味既定路線であり、粛々とやっていくものであります。それ以外に、策定した当時、他自治体でいろいろな先進事例がありましたので、本市でもできないかということで、結構、先走った形で書いてあるところもあります。そうした事業が雇用や仕事づくりの分野で多く、そうした背景もあって進捗が遅れている状況となっております。他自治体の事例をそのまま

本市に当てはめてよいかどうかも含めて、検討している状況でございます。

[委員]

稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議があろうがなかろうが、過去から現在、現在から将来に向けて、市として安定的にやっていかなければならない事業があると思います。例えば、子育てや福祉、防災というのは、何があろうとやっていかなければならない事業だと思います。現場までちゃんと意思が伝わっていて、順調に行えている部分については、市としてやっているというアピールは要ると思いますし、決して軽んじるつもりはないのですが、今回のようなフォローの会議では、「順調に行っている」と言ってもらえれば、「はい、そうですか」で終わると思います。むしろ順調に行っていない事業や、当初の方向性から変えていきたい事業について議論をするべきだと思います。事務局から資料の概要を説明していただいたのですが、全ての事業を1件1件取り上げていたら、1時間半で会議が終わりません。もう少しエッセンスと言いますか、議論の的を明確にしていきたいと思います。それが先ほど申し上げた「市の判断等がない」という意味です。申し訳ないですが、これでは単に現状の数字を羅列しているに過ぎないと思いますので、次回からはもう少しポイントを絞っていただいた方が良いのではないかと思います。

[委員]

重点戦略を抜き書きするなど、メリハリのある記載内容とし、現在どういう状況で、何に困っていて、これからどのような方向性で進んでいくかが分かるような形で、次年度以降のフォロー会議をしていくと良いのではないかと思います。

名鉄国府宮駅周辺の再整備に着手したとのことですが、下津地区の開発ではスタートしてから30年くらいで劇的に変わったと聞いています。スピードを上げて進めないと、リニアインパクトの頃には他の市町村に先を越されてしまいます。せっかく皆さんの知恵を集めたこの会議があるのに、「残念ながら遅れました」ということにならないように、重点戦略に掲げた事業は抜き書きして、PDCAを回して、ここは上手く行っています、ここはちょっと課題です、ここはもう少しいろいろな方のご意見をいただきたいです、といったように、フォロー会議を進めていくと良いのではないかと思います。

それから、久しぶりに改めて重点戦略を見て、名鉄国府宮駅周辺の再整備、B街区、シティ・プロモーションについてはもっと早く進めていかないといけないのではないかと感じます。あと、保育士確保についてもどこの市町村も力を入れてやっという状況でもあります。この稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議や稲沢市総合計画審議会、思い切った戦略との評価をいただいていると思いますので、重点戦略についてはもう少し力点を置いていただけたらと思いました。

[委員]

来年度の報告では、平成 27、28 年度実績の横に平成 29 年度実績が並ぶと思いますが、それだけではなく、重点戦略あるいは基本的方向の単位くらいで、事務局の評価と平成 31 年度までの達成に向けてこうすべきだといったコメントを加えるという方向で検討していただくということで良いでしょうか。

[委員]

委員もおっしゃいましたように、順調に進んでいる事業は説明を省き、順調でない事業について現状を説明して意見を伺うなど、焦点を絞って資料をご提示いただければと、私たち委員にとっても見やすくなると思います。

[委員]

この会議の議事録は公開するのでしょうか。例えば、市としての判断を表に出すと誤解を与える懸念があるのであれば、市の判断の部分全てを公開しなくても良いと思います。議論のたたき台としての市の判断という意味では、どこまで公開するかについては別途ご検討いただければ良いと思います。なんでもかんでも公開すれば良いとは思いません。

[委員]

こうして K P I を設定してしまうと、数値を達成する方向性だけでどんどん流れて行ってしまう気がします。元々予算ベースで動いている事業がかなり多く、そうした事業は数字の方は比較的達成できてしまいます。原点に立ち戻って、何のためにこれらの事業をやっていたかというところから、市の最重要課題を改めて検討し直していく必要があるのではないかと思います。

社会的な状況を見ますと、例えば生産緑地の問題ですとか、減反の問題など、ここ 2、3 年の間で随分、土地利用の流れが変わってきている状況もあります。そうした対策をゆっくり進めてしまうと、他の自治体からもっと土地が供給されて、本市が埋没するということになりかねません。民間活力の利用といった手法をお考えであれば、もう少しそうした点に重点を置けるようなアプローチも必要ではないかと思います。

シティ・プロモーションでは、市制 60 周年を契機に CM 制作を行うとのことであり、どのような媒体か分かりませんが、新しく若い方に住んでもらうということを目指した場合には、そうした対象の方をターゲットとした CM を制作する必要があります。名所があるとか、旧跡、お寺があるといったことは、住む動機にはなかなか結び付きませぬので、上手くアピールをしていただきたいと思います。

[委員]

「基本目標（１）市のポテンシャルを生かした定住を推進します」に関して、「いなっピー」生誕 10 周年の記念グッズを平成 29 年度に販売できるよう観光協会へ働きかけたとありますが、小さい店舗一つひとつにもグッズを置いた方が目につきやすいし、買いやすいと思います。

[委員]

「基本目標（４）人口減少社会に向き合い、将来に渡って市民の暮らしを守ります」は、いま本市に住んでいる方々に向けての政策が中心だと思います。実績を見ますと、いろいろな事業が進んでいると思うのですが、その中で、数値目標の「稲沢市を住みやすいところと感じる市民の割合」が減っていることが気になりました。事業を進めているのに、住みやすいと感じる人が減って目標値から遠ざかっている状況に鑑みますと、進めている事業は、市民にとって有益なものなのか、市民にどう思われているのか、そもそも市民のニーズに合っているのか、振り返りといいますか、原因を探ったり、分析したりすることも大切だと思いますが、職員の方々がどう考えているのか、実際に調査などを行っているのか、それを各課で行っているのか、そうしたことをお聞きしたいと思います。

[事務局]

本市では、2年ごとに市政世論調査を実施しておりますが、ご指摘の件の分析としましては、住みにくいと回答された方にその理由を聞いた結果を見ますと、全体、男女とも「交通の便が悪い」が多くなっています。居住地区別では、明治地区、千代田地区、祖父江地区、平和地区などで高い割合となっていますので、地区の特性が影響している部分があります。また、地区によっては「福祉・医療が不足している」や「まち全体の雰囲気が悪い」が高くなっております。調査結果につきましては、分析をしながら、どのような手を打つか検討しております。例えば、「夜道が暗い」ということであれば、防犯灯を作るなどの手当が可能ですが、「交通の便が悪い」に対しては、コミュニティバスを走らせてはいるものの、なかなか全てを網羅することは困難です。いずれにしても、こうした分析を踏まえ、担当で方策を検討しているという現状でございます。

[委員]

「交通の便が悪い」という市民の声に対しては、出来ることと出来ないことがあると思いますし、地区によって、人によって感じるところはいろいろあると思います。今回のような会議の場で皆さんの意見を聴くことも大事ですが、実際に本市に住んでいる方々の声を吸い上げる機会ですとか、市内にお住いの職員の方が日頃からアンテナを高くするですとか、市民の声も政策形成に反映されると良いと思います。

[委員]

資料4 ページからの「基本目標(2) 第2子、第3子が生まれる環境を創ります」の部分について、いまも保育園にお子さんを預けて仕事場に走ってくる人たちがいると思いますが、本市に託児所設置などの要望が潜在的にあるならば、育児ステーションを創設するなど、強化していくことも大事なのではないかと思います。

5 ページの父親の子育て応援について、他のセミナーで、ヨーロッパで出生率の高い国は男性の育児参加率が高いということを知りました。現在実施しているような講座だとか、動機付けはとても大事だと思うのですが、ここにもう少し厚みを持たせると、子育てをしやすい女性が増え、出生率アップにつながっていくかもしれませんので、もっと専門的な調査をしていただいた上で、厚みを持たせていただけると良いと思います。

出生率に直接つながる不妊治療費補助についても、2年間で100万円の1/2まで補助ということは、周知を図っていると思いますが、まだ利用者が少ないのであれば、周知の方法を工夫したり、あるいは、他の市町村と補助費があまり変わらないのであれば、もう少し補助費を増額してみる、ということもご検討いただけると良いのではないかと思います。

あと、望まれない妊娠で生まれた赤ちゃんについて、特別養子縁組制度の法律の改訂があったと聞いておりますので、いわゆる赤ちゃんポストのようなことを本市でも実施することをご検討いただけると良いのではないかと思います。

12 ページ、介護関係についても、お年寄りの健康を維持したりとか、いろいろな教室を開いたりとか、努力していただいていると思うのですが、今後、介護のために会社を辞める人が増えたり、また、親を会社に行く前に預けて、会社が終わってから迎えに行くという時代が到来するかもしれません。本市でも先進事例等を調査しながら、介護ステーションなどの創設も視野に入れていただけると良いのではないかと思います。

9 ページの企業誘致について、平和工業団地にまとまった土地をご用意いただいているものの、地盤沈下の懸念があります。なけなしのお金を投資する企業側からすると、地盤沈下への対策を打っていただけると、不安が除かれ、ここに工場用地を取得しようと考えられるかもしれませんので、なにかしらの方策をご検討いただけると良いのではないかと思います。

また、豊田合成男子バレーボール部が昨年Vリーグ準優勝、今年は優勝しました。計画の中にトップアスリートとのスポーツ交流を掲げていただけており、選手たちも励みになって良いと思うのですが、もう少し将来的な視野で申し上げますと、2020年のオリンピックでは、世界からトップアスリートが来ます。オリンピックを見据えたトップアスリートとの交流事業なども、早め早めにご検討いただけるとより良いのではないかと思います。

[委員]

いくつかPRについて伺います。

子育てや介護などいろいろな施策がありますが、基本的な周知方法として広報などがあると思います。ですが、例えば、子育て世代、特に子どもが保育園に通っている親など、明らかにニーズがある世代に重点を絞って、いろいろな補助制度や施策をちゃんとPRしなければ意味がありません。そうしたピンポイントにターゲットを絞ったPRは果たして考えられているのだろうかと思いました。例えば、資料 5 ページにパパの育児講座の参加人数が 17 人と書いてあります。人数がどうこうではなくて、いろいろな施策をやっている中で、施策としては正しい方向性だとしても、認知度が低く、特定の方だけしか知らなければ、特定の市民に偏った補助になってしまっているということなので、もう少しニーズの高いターゲットを絞って、施策が必要な方に広く知ってもらおう努力を市はしているのかという点に不安を感じます。

それから、もう 1 点、この稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議が始まって 2 年近く経ちますが、私は営業の関係で、特に 60 代から 80 代の方と接する機会が多く、この稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議や稲沢市総合計画審議会等について、会う人会う人にお話をしているのですが、ほとんどの方がご存じありません。ホームページでPRはしてもらっていると思いますし、パブリックコメントも実施していただいているのですが、かなりのボリュームがある計画を細かく読み込む方というと余程の方しかいないと思いますので、もう少し市民への情報提供の手法について心を砕いてもらえると良いのではないかと思います。例えば、両方の会議で大きくクローズアップされています、名鉄国府宮駅周辺の再整備については、おそらく市内の人にとって誰もが関心のあることだと思いますが、これに関しても皆さん「変わらないね」とおっしゃるだけで、この会議等の話をしても、「そうなの？」というような反応が非常に多いです。ですから、広報等で特集を組んで、市として、いまどこに注力しているのかをPRしていただきたいと思います。その場合においても、人間が集中して読めるのはA4用紙1枚程度と言われているので、そのくらいのボリュームで、言いたいことを二つか三つに絞って書くといったやり方をさせていただく必要があります。せっかく会議の場で皆さんにいろいろ考えてもらっても、市民に響いていないのではないかと感じますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

#### [委員]

「基本目標（3）市内の雇用を拡大します」「基本的方向④：地元企業PRや第三次産業育成等で若者や女性の雇用機会を拡大します」の1段目「高校・大学と中小企業の交流・連携」について、実績を見ますと、具体的な手法が何も書いてありません。あくまで個人的な案なのですが、本市の魅力と言えばやはり緑であり、農業だと思います。そうした分野で人材不足だと言うのであれば、市だけの責任ではなく、学校教育にも取り入れる必要があるのではないかと考えています。若者からすると、農業に関しては、稲沢高校の専門科くらいしか学びの場がありません。せっかく市内に二つの大学がありますので、例えば、

名古屋文理大学の健康生活学部にフードビジネス学科という科があると思うのですが、併設という形で農業の学科自体を、市とも提携して創ってはどうかと思います。難しいとは思いますが、やる気とヒトとモノとカネがあればできると思います。学ぶための道具、備品であったり、いろいろな人の協力が必要だと思いますが、フードビジネス学科には食品メーカーコースであったり、食品流通コース、フードサービスコースがあり、食に関する力がとてもあると思います。農業に関連することであり、農産物自体が食品につながっていくことを考えますと、食の情報をテーマとしてアクションを起こすのであれば、若者を使っての意識づくりや人材創出という点で面白いことができるのではないかと思います。

[委員]

新しい事業を追加するのは難しいかもしれませんが、例えば 10 ページの「持続可能な農業への連携促進」や「地域の食と農の拠点創出」、11 ページの「6 次産業化の取組みの推進」などで実施できそうではないでしょうか。ユニーと一緒に取り組んだ実績があるわけですから、同じように大学とコラボするのも良さそうに思います。特に「地域の食と農の拠点創出」は具体的な記載がありませんので、よろしければご検討ください。

あと、多くの事業で K P I が「手法の検討：H31 まで」となっていますが、これは平成 31 年度までに検討すれば達成ということで本当に良いのかと思います。本来は K P I を途中で変えてはいけないのかもしれませんが、このような場合は見直しても良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

[事務局]

この会議を開催させていただく前に、市長が本部長を務めます庁内の会議におきまして、K P I や目標につきましては、いろいろと議論がございました。この部分につきましては、全庁的に整理をさせていただきたいと考えております。この会議の中で委員の皆様からご指摘いただきました点も踏まえまして、見直しについて検討させていただきたいと考えております。

[委員]

今回は 2 年目で変化が見えてきたということで、3 年目はそれで終わることなく、次に生かせる評価となるようにしていただければと思います。

[委員]

最初の目標「社会増」について、平成 27 年度マイナス、平成 28 年度マイナスとマイナスが積み重なってしまうと、このあと相当苦勞するのではないかと思います。結局、大規模な住宅供給がなされないと、こうして下がってしまうような数字が出てきてしまうと思

うのですが、現在、稲島東地区や名鉄国府宮駅周辺の青空駐車場といったところの高度利用が進んでいません。そうした点について具体的に何か進んでいるようなお話があれば、お聞かせいただきたいと思います。

[事務局]

「第6次稲沢市総合計画」におきましても、宅地供給につきましては、重点的に取り組む課題としております。社会増に向けましてはかなり厳しい状況ですが、一步一步取り組んでまいりたいと考えております。人口につきましては、各事業の相対的な効果もございしますので、「第6次稲沢市総合計画」、「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組みを進めていくことによって、社会増につなげていきたいと考えております。

[委員]

社会増が、一昨年度が292人減、昨年度が34人減ということで、一昨年度より昨年度の方が減り方が減ったと前向きに捉えることもできますが、最終的な目標値として平成31年度までに650人増やすにあたり、「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に記載されている施策でその実現を図らねばならないわけです。もっとこの事業に力を入れなければいけないなど、本市に住んでいる視点から何かご意見はありますか。

[委員]

資料3 ページの上から二つ目の「市街化調整区域での住宅の立地条件緩和」につきまして、私は一宮市に住んでいるのですが、一宮市ではどんどん賃貸物件が建ったり、田畑が売れて一戸建てが建ち、分譲がどんどん売れていて、この少子化の時代に私が住んでいる小学校区域では子どもの数が増えています。この「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定している当時、そのテーマでいろいろ議論があつて、本市は10%台しかない市街化区域をもっと大胆に変えていくような議論をしていた記憶が蘇ってきました。実際、市がいま取り組んでいることとしては、条例制定の手法について検討しただけとなりますので、この点についてももう少し力を入れられないといけないのではないかと思います。難しさは大いにあると思いますし、新聞でも上手くいっていない市町村の例が載っているのを見たりもするのですが、ここが鍵だと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

[委員]

稲沢市総合計画審議会の議論の中で、「下津地区に高層の分譲マンションや住宅を供給したにも関わらず、市全体で人口が増えなかった」という意見に対して、「新規の宅地供給をしていなければ、もっと大きく減っていた」と建設部長が総括をされていたと思います。

放っておけば減っていたところを、優良な宅地供給を大幅に実施したことによって横ばいであったということだと思います。人口がまだプラスに転じていないことから、子育て支援などソフトの部分というのは時間がかかるものと推察しますが、ハードの部分の宅地供給戸数だとか、面積だとかいうものは非常に分かり易い指標だと思います。それについては、市としては予定どおり供給できているのでしょうか。需要に比べて供給不足かどうかといったデータは何か市としては取られているのですか。

[事務局]

そういったデータについては取っておりません。

[委員]

それは市としては取る術がないということでしょうか。取ろうと思ったら取れるのでしょうか。何が言いたいかと申しますと、例えば、市場に 500 戸くらいの分譲戸数ができたとして、実際に買う人がいなかった、ということであれば、施策自体を見直さなければいけません。500 戸できて 500 戸全て埋まったということであれば、それは供給戸数が足りないということになります。これは「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「第 6 次稲沢市総合計画」を策定する段階で両方いずれの議論にもありましたが、基本的には宅地の供給不足だということを前提にしているわけです。本当に供給不足なのかどうかということについては、やはり市としては、不動産業者の力を借りるのかどうかは分かりませんが、何かで拾う努力をしていただかないと、そもそも宅地の供給戸数を増やすという市の方針自体が正しいかどうかを調べられないことになってしまいます。どのような方法があるかは分かりませんが、業者に協力していただくなり、供給戸数の実態を把握する必要はあると思います。

[委員]

例えば、都市計画マスタープランの見直し時期がそろそろではないですか。そのための調査をするなどすれば良いのではないかと思います。

[事務局]

都市計画マスタープランにつきましては、今年度策定に取りかかっております。これまでに、転入される方、転出される方へのアンケートを取るといったことは行っておりますが、確かに必要な点だと思いますので、今後どのような対応が可能か、検討してまいりたいと思います。

## (2) その他

[会長]

他に意見もないようですので、次に、協議事項の2「その他」について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

本日いただきましたご意見を踏まえまして、本年度及び次年度からの事業の実施や検討を進めさせていただきます。庁内でも、KPIを達成した事業、また、逆にKPIの達成が難しい事業についてはどうしていくか、といった意見がありましたので、KPIや事業そのものについて、全体的に整理をさせていただいて、次年度以降の進捗状況の報告につなげたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、来年度につきましても、同じように7月もしくは8月頃の会議の開催を予定しておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

[会長]

事務局から説明が終わりました。ご意見・ご質問があるようでしたら、お受けしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

以上をもちまして本日の協議事項を全て終了いたします。委員の皆様につきましては、大変熱心なご議論をいただきましてありがとうございました。来年度以降も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

[事務局]

慎重審議賜りまして、誠にありがとうございました。

それでは、会を閉じるにあたりまして、市長公室長の篠田よりあいさつ申し上げます。

[市長公室長]

委員の皆様方におかれましては、貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。

来年度以降、この「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進するにあたりましては、実績報告だけでは今後の方向性が見えず、なかなか議論が厳しいのではないかと思っております。「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は5年の計画ではありますが、当然そこで終わって良いのかという議論もあると思います。「第6次稲沢市総合計画」は10年ですし、今後どう取り組んでいくかというロードマップを示さないといけないのではないかと思います。本日いただきましたご意見を基に、順調に行っている事業、また、そうではない事業などを明確にした上で、焦点を絞ってご議論いただき、見直しを図ってまいりたいと思っております。

これからもこの会議につきまして、ご支援ご協力をお願いしたいと思います。  
本日は誠にありがとうございました。

[事務局]

以上をもちまして、平成 29 年度稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議を終了いたします。委員の皆様、大変ありがとうございました。お帰りの際は、天候もぐずついておりますので、交通事故等にお気をつけいただきますようよろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。